

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：ののほな保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：伊藤雅子	定員（利用人数）： 50名（50名）
所在地：横浜市戸塚区戸塚町4396	
TEL：045-861-4830	ホームページ： www.momo.ed.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2013年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人ももの会	
職員数	常勤職員： 11名 非常勤職員 16名
専門職員	（専門職の名称）園長 1名 保育士 17名
	栄養士 3名 保育補助 3名
	調理補助 1名 保育事務 1名
施設・設備の概要	（居室数） 6室 （設備等） 事務室、保健室、更衣室、給食室、給食職員更衣室、乳児用トイレ、幼児用トイレ、みんなのトイレ、エレベーターなど

③理念・基本方針

保育理念

1. 子どもの育とうとする力を信じ、環境を通じて保育を行います
2. 「あそび」ことを保育の中心に置きます
3. 意思を持った一人の人格として子どもを尊重します

保育目標

こころも からだも けんこうな子

④施設・事業所の特徴的な取組

木の温もりを大切にした園舎の中で、元気いっぱい子どもたちが毎日登園しています。春は、梅、枝垂れ桜、木蓮、チューリップ等色とりどりの花々が咲き、夏は子どもたちが栽培するキュウリ、なす、おくら、ゴーヤなどが実ります。秋は紅葉が紅葉し、バケツの小さな田んぼで育てたお米を収穫します。

子ども一人一人が主人公の毎日の中で、愛されていることを実感できる保育をしています。

日々の保育の中で户外遊びは、砂遊び、泥んこ遊び、夏はプールを出して水遊びを楽しみます。地域の公園でも、園庭のように子どもたちの思い思いの遊びを楽しみます。

室内では、手先を使った遊びや、乳児から幼児までリズム遊びを大切に考え、ピアノの音に合わせて体を自由に動かすことやピアノの音に瞬時に反応し、ウサギ、金魚、アヒル、馬などになって身体的な発達を促します。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年4月10日（契約日） ～ 2023年11月7日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（ 2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆子どもの気持ちを尊重した保育の中、子どもたちは自分らしさを発揮して活動しています

職員は、子どもの気持ちを尊重した保育をするように努めています。会議などで子どもの権利や個別性を尊重した保育の在り方を職員間で話し合っ一人ひとりの子どもの状況を把握し、共通認識を持って個別に対応しています。また、異年齢保育等を通じて子どもが相手の気持ちを理解し、思いやりの心を育むよう働きかけています。保育士は絶えず優しく声をかけ、靴を上手に履けない子どもには出来るようにやり方を教え、ゆっくり待ったり、やりたくない気持ちも汲んで「手伝って良い？」と聞いたりしています。乳児クラスでは、保育士が子どもの遊んでいる様子を見て、友だちと一緒に遊べるよう声掛けして大きく遊びが展開しています。幼児クラスでは、子どもたちはお店屋さんごっこで一緒に制作たり、店員さんとお客さんの役割を交替しながら、それぞれの役割を楽しんでいます。また、5歳児クラスは、運動会でやりたいことを話し合っ保育士に提案し、友達と一緒に考えたり取り組む楽しさを経験しています。

この様に自分の意思を尊重してもらえる日々の保育の中で、子どもたちは好きな遊びを選んだり、友だちと遊びを工夫したりしながら、様々なことを経験し、自分らしさを発揮して保育園生活を楽しんでいます。

◆職員はコミュニケーションを図り連携しながら、子ども中心の保育実践を目指しています

職員は、日々の打ち合わせや会議での話し合いだけでなく、午睡時間などを使って、様々な話し合いを実施し、共通認識を持って個々の子どもに応じた保育を実践しています。また、保育日誌に毎週保育士の気づき・考察（1歳児が自分から帽子を取りに行き、友だちにも手渡すなど子どもの成長の様子や感性が伝わる楽しいエピソード）を記載するなど、常に注意して子どもたちの様子を見るよう努めています。職員の考える保育ではなく、子どもの視線に立っ、子どもが求めていることに応えるようにしています。子どもの様子を見守り、子どもの気持ちを受け止め、気分を変える時間を作るようにしています。さらに、子どもが皆と同じ活動を一緒にやらない自由もあるとして、職員間で連携して子どもと1対1で個別対応できるようにしています。園長は、「子ども中心の保育」を目標に研修で得た情報を職員に伝え、職員の改善提案を積極的に採用して、職員の主体性や意欲を引き出し、保育の質の向上を意欲的に進めています。

◆非常勤職員を含めた情報共有の仕組みを期待します

園は、職員会議やカリキュラム会議などの細かな情報が非常勤職員に周知されていないことに気づき、非常勤職員会議の他、非常勤職員も参加する乳児会・幼児会を設置しました。今後はさらに、日々の周知の仕組みを考え、全職員が情報を得て、共通の理解を持って取り組まれることを期待します。

◆地域交流と地域貢献の実施を期待します

全体的な計画に「地域・社会への貢献」を、中期計画に「地域子育て支援の向上」と明示し、園庭開放や法人系列園合同で育児講座を開催していますが、地域住民に対す

る多様な相談事業などは実施されていません。地域交流は、コロナ禍後具体的な活動は休止しています。今後は、保育実践で蓄積された高い専門性と園らしさを発揮して、さらなる地域交流と地域貢献の取組が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

最初は文章の中の一つひとつの言葉を調べることから始まった自己評価ですが、皆で会議の中では話すことができないことをじっくりと話ことができ、職員ひとり一人にとってとても勉強になりました。毎日の仕事の中では見えていなかったことをたくさん知ることができました。グループ討議の中で、書類の管理されている場所や内容が、正規の職員には知らされていても非常勤の職員にはわからないという意見が出され、職員会議や非常勤会議の中で伝えていたつもりになっていることが多いことを感じました。その結果を受けて、会議の形を変え、職員一同が共通理解できる環境をつくり始めました。また、保育園は社会福祉事業の中の一つの施設であることを再認識しました。

保護者アンケートのご協力も頂き、保護者の皆様のご意見の中から、職員が励まされ、また保育全体を見直すきっかけにつながりました。

今後は、公表していただいた第三者評価の結果をもとに今後の課題としてお示しいただいた、地域の施設等との連携や実際には行っている内容の中でも、明文化されていない事の明文化など、課題をクリアーし、子どもたち、保護者の皆様にとって安心して利用できる施設となるよう全職員で協力し、研鑽を深め、地域に根差した保育施設となるよう、事業に取り組んでいきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり